

秋田県・市連携文化施設建替案の評価と代替案の検討

240406 大場康太

本研究は県・市が提案した連携文化施設の整備方針は再検討の必要があると証明するために行った。今日、秋田県・市は老朽化と耐震補強の問題から県民会館と市文化会館の連携文化施設への建替を検討しており、施設整備方針公表されている。文化施設とは文化・芸術活動のために使用される施設というだけでなく人と人との交流の場、その地域の将来の顔となるものである。文化施設とは何か、地域活性化に繋がる将来設計とは何かを把握した上で県・市の提案する整備方針の実態を分析し、秋田に必要な文化施設であるか否かを明らかにし、再検討の必要性を証明した。本研究論文は県・市の提案する整備方針の再検討に繋がる有意義な資料と考える。

Key word: 県・市の整備方針、代替案、文化施設、候補地、地域活性化

1. はじめに

1.1 背景

現在の秋田県民会館と秋田市文化会館は老朽化が進み耐震という点において建替が必要であるとされている^[7]。県・市は現在秋田県民会館既存地（図1）を建設候補地に挙げ新たな文化施設の建替に関する整備方針を公表しているが、候補地への建替では駐車場の確保、工事期間の施設利用停止、整備方針の要求する機能の確保などの問題がある。しかし整備方針の内容からはこれらの問題に対する考慮がなされていないと感じた。文化施設、地域活性化とは何かを把握したうえで秋田に必要な文化施設を検討してもらう必要があると思った。以上のことから県・市の整備方針は再検討が必要だと考え研究を行った。



図1：秋田県民会館既存地 位置

1.2 目的

- 1) 県・市が提案した県・市連文化施設整備方針は再検討の必要があると証明する。
- 2) 文化施設建替の問題をきっかけに秋田県の地方活性化と今後の秋田について意識を持ってもらう。

1.3 研究の流れ

県・市の整備方針問題点を明確に把握する。把握した問題点の解決を目的として整備方針の代替案を作成する。県・市の整備方針案と代替案を比較し、比較結果を基に研究を結論付ける。

2. 現状

2.1 県・市の整備方針

県・市の提案する整備方針を構成する基本的な考え方（機能）と要求される設備を以下に記す。

基本的な考え方

- ①文化創造の機能②発表・鑑賞機能③情報の提供、発信機能④コンベンション機能⑤にぎわい創出機能

要求される設備

- ①2000席規模の高機能型ホール②800席規模の舞台芸術型ホール③カンファレンス機能を持つ場④パブリック空間を形成する場 など

2.2 整備方針の問題

県・市の提案する整備方針の問題点は方針内容の問題と設計における問題の二種類がある。設計における問題を明確にするため、実際に県・市の整備方針の内容通りに文化施設の設計を行った（図2）。個人の設計だけでは問題を明確にできないため、高専の生徒複数名にも同様の設計を行ってもらいデータを提供してもらった。方針内容の問題と複数の設計データを照査した結果、共通してみられた問題点を以下に記す。

方針内容の問題点

- 1) 飲食の場やカンファレンス機能、楽屋の部屋数など設ける設備は挙げているが規格、規模の詳細がない。
- 2) 4年の工事期間の施設利用の停止に対する考慮がなされていない。
- 3) 県民会館の機能の一部は新しい文化施設に引き継がれない（ジョイナス、150席の小ホール等）。
- 4) 公表している配置イメージ（図3）では規格などの詳細な情報が得られない。

設計における問題点

- 1) 2000席規模のホールと800席規模のホールを配置するとその他の機能を十分に設けられない。
- 2) 二つのホールの棲み分けが難しい。
- 3) 文化施設を配置すると駐車スペースが確保できず、敷地へのアプローチも不便である。
- 4) 歩車分離がしにくい。

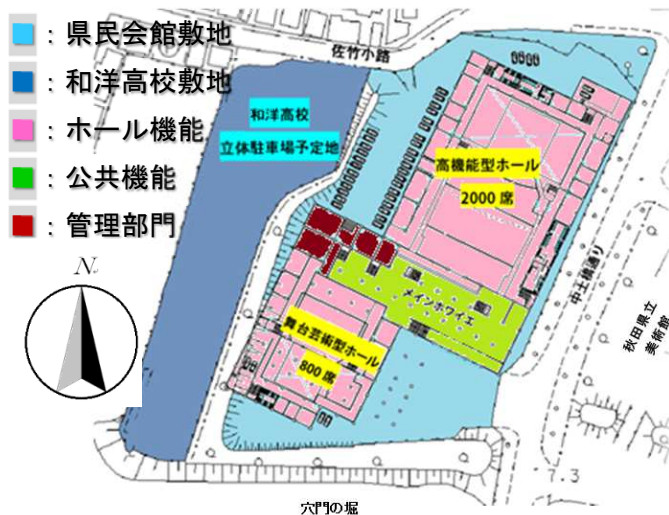


図2：文化施設 個人設計の一例

2.3 配置イメージの比較

図3は県・市の公表している文化施設の配置イメージである。図2、3を見比べると図3の方は施設が小さく見え、敷地に十分建設できるように見えるが県・市の配置イメージには寸法や尺度が記載されておらず、具体的な規格が分からなかった。施設に要求されている二つのホールを設計するならば図2のように敷地の大半を占めることになり、メインホワイエやカンファレンス機能の場は十分な広さがとれない。（図2は寸法、尺度の情報を入れていないが整備方針が要求する二つのホールの規模を満たしている。）

2.4 整備方針の評価

問題と思われる点をまとめた結果から考えられる県・市の提案する整備方針の検討し直すべき点は以下のとおりである。

候補地の秋田県民会館既存敷地は整備方針を満たすには立地条件が適していないため候補地の変更を検討するべきである。

候補地への建替を行うのであれば秋田県民会館既存敷地に適した規格、規模の機能と設備を検討するべきである。

また、工事期間の施設利用の停止及び新設される文化施設に県民会館の機能の一部が継続されない件については解決策の提案が重要な課題だと考えられる。

解決策が県民に納得のいくものでなかった場合は建替を行うべきではないと主張する。

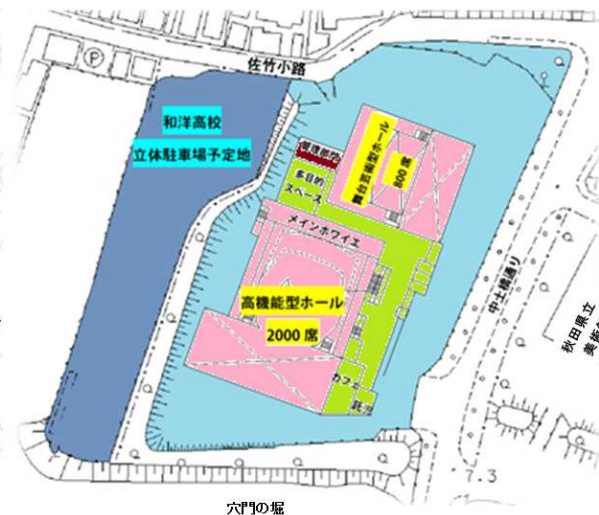


図3：県・市案の配置

3. 代替案

3.1 代替案の概要

県・市の整備方針の問題と思われる大部分は候補地の立地条件にあると思われた。そこで、候補地を変更した場合、問題の解決を図ることができるか検証するため代替案を検討した。

3.2 候補地の選定

代替案を検討するにあたり文化施設建設の候補地を秋田駅東口駐車場の敷地（図 4）へ変更した。秋田県民会館既存地よりも敷地が広く、交通機関の中心である秋田駅に隣接しており、文化施設を新設できるという点で秋田駅東口駐車場の敷地を選定した^[12]。



図 4：秋田駅東口駐車場敷地 位置

3.3 前置き

代替案は県・市の問題の解決に候補地の変更が必要であると主張するための提案であり、秋田駅東口駐車場に建設することが最善だと主張するものではない。

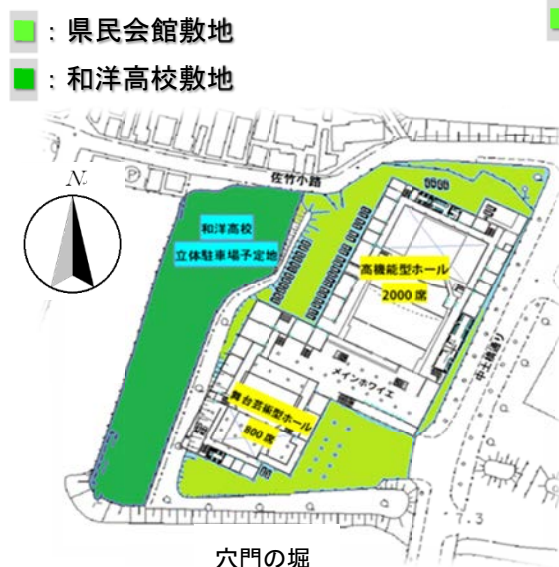


図 5：個人設計の配置

3.4 候補地の比較

県・市の候補地と代替案の候補地を比較した結果を表 1 に記す。そこから以下のことが分かった。

秋田駅東口駐車場の敷地は秋田県民会館既存地の約 1.7 倍の敷地面積を所有している。図 5 は県・市の整備方針案の配置を示したもので、図 6 は候補地を秋田駅東口駐車場の敷地に変更した場合の配置を示したものである。図を見て分かるように秋田駅東口駐車場の敷地に文化施設を建設する場合、敷地に余裕ができるため駐車スペースの確保が容易である^[12]。

秋田駅が敷地の西側に隣接しているため電車を利用して文化施設へと足を運ぶ人の移動が容易である。秋田駅との間に連絡橋を設ければ雨天時でも徒歩で施設を訪れることが可能となる。

これらの点から候補地を秋田駅東口駐車場の敷地に変更した場合、県・市の整備方針の文化施設を十分に建設できるだけでなく、文化施設の設計の幅を広げることでもできると考える。

表 1: 秋田県民会館既存地と秋田駅東口駐車場敷地の比較				
	秋田県民会館既存地	秋田駅東口駐車場敷地		
敷地面積	13000㎡	22000㎡		
交通機関	バス、自動車、徒歩	電車、バス、自動車、徒歩		
敷地アクセス	一方通行の出入り	バスロータリー、地下駐車場への出入り		
用途地域	第一種住居地域	第二種住居地域	近隣商業地域	商業地域
建ぺい率	60%	60%	80%	80%
建築面積	7800㎡	5160㎡	6720㎡	4160㎡
計	7800㎡	16040㎡		
容積率	200%	200%	200%	400%

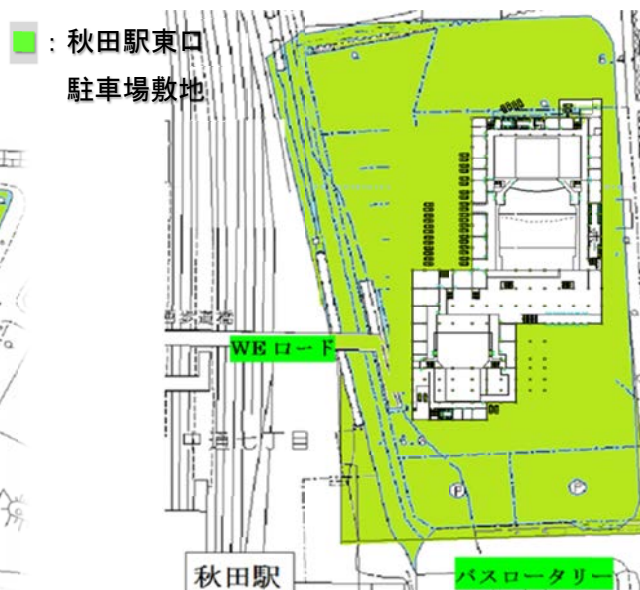


図 6：秋田駅東口駐車場に建設した場合の配置

3.5 文化施設の設計

1) 配置計画

代替案として秋田駅東口駐車場の敷地を候補地に挙げ文化施設の設計を行った。代替案における文化施設の整備方針は県・市の提案している整備方針の内容を再現する他、秋田駅との連携を考慮したものとした。代替案の配置と動線を図7に示す。秋田駅東口駐車場の敷地に秋田駅、バスロータリー、大通りが接しているため歩車分離や用途分離が容易である。またバスロータリーを挟んで南にはアルヴェやNHKがある。バスロータリーがあるため公共の交通機関とマイカーとの分離を図った。

敷地の北側を施設利用者、秋田駅東口駐車場利用者の車の動線とし、敷地の南側に広場を設け人の動線とで歩車分離を図った。広場は駅前広場としての役割を持たせ、人々の集う場（パブリック空間）の形成を図る他、イベントなどの会場としても利用できる場とした。

敷地と施設の南側にはパブリック空間とカンファレンス機能を持つ場を配置し、アルヴェやNHKなどと情報発信の繋がりを持たせることができるようにした。

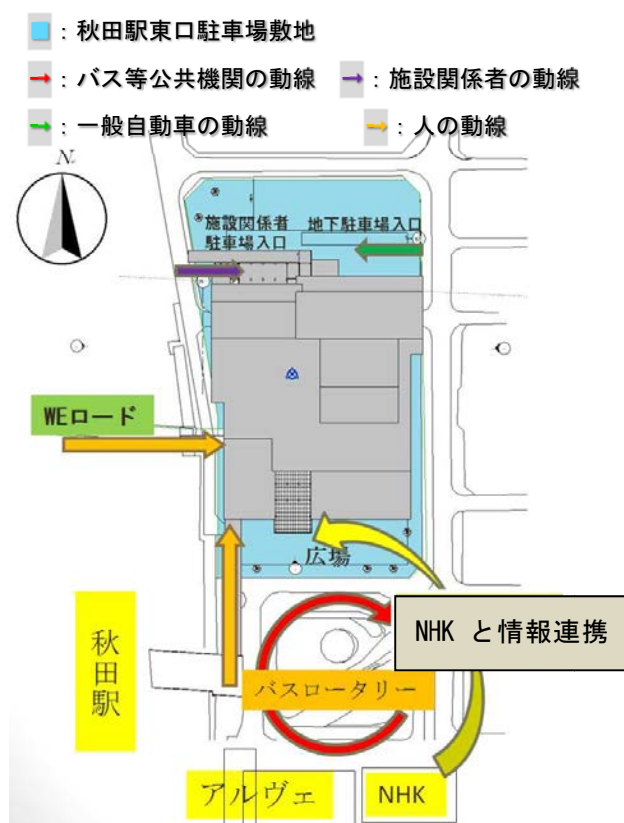


図7：代替案の配置

秋田駅利用者が文化施設へ直接訪問できるように WE ロードとぼぼロードに連絡橋を設ける。全天候対応とすることで雨天や積雪時などでも外に出ることなく施設を利用できる。

2) ホール機能の設計

劇場、音楽、芸術ホールとは何か把握し、設計を行った^{[1][2][3][8]}。秋田県民会館既存地での設計にあたり大きな課題だったのが2000席、800席規模の二つのホールの設計と配置である。それぞれに十分なホワイエを設けられない他、チケットの共有化が起きないように利用者の棲み分けを考慮しづらかった。図8を見て分かるように、秋田駅東口駐車場の敷地は二つのホールを十分に設計することが可能だった。ホワイエを広く設けられ、そのうえでエントランスロビーやレストラン等の飲食スペース、会議室、情報発信の場などカンファレンス機能とパブリック機能をもつ場を設計できた^{[3][6][9]}。2000席規模の高機能型ホールと800席規模の舞台芸術型ホールでエントリーする階を変えチケットの共有化を回避した。

以上から2000席、800席規模のホールの問題は解決できたと判断した。

- ：高機能型ホール ■：舞台芸術型ホール
- ：施設管理部門 ■：公共空間
- ：NHK、アルヴェとの連携空間

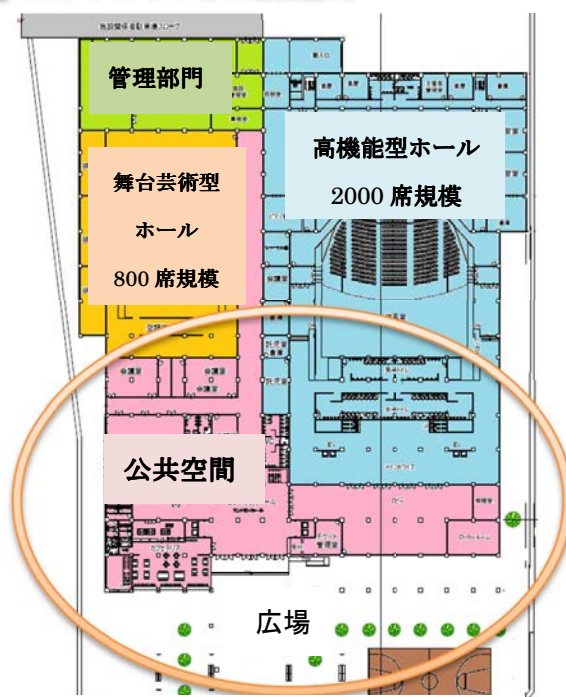


図8：一階平面 配置計画

3) 駐車場の確保

秋田駅東口駐車場敷地での建設にあたり考慮しないといけないことは現時点での秋田駅東口駐車場の利用者分の駐車スペースを確保したうえで文化施設利用者の駐車スペースを確保することである。今回は秋田駅東口駐車場に地下二階分の地下駐車場を設計することで問題の解を図った（図12に断面図を提示）。施設関係者の駐車スペースと施設利用者の駐車スペースを分けることができ、地下駐車場にすることで施設利用者及び秋田駅東口駐車場利用者は雨天や積雪時でも外に出ることなく車への乗り降りが可能である。

3.6 代替案のまとめ

1) 設計について

代替案として設計した文化施設は県・市が提案する整備方針が要求している設備を備えたものとした。それに加え、駅前広場や秋田駅を繋ぐ連絡橋など秋田駅東口駐車場の敷地の特色をとり入れた設計とした（図9、図10）^[4]。文化施設の機能について各階層の機能分けを示す。（図11）

各界に公共空間を形成する場を設けることで施設全体を使用してもらえる^[6]。

2) 問題の解決

代替案を作成した結果、県・市の整備方針に見られた問題は解消できた。候補地を秋田県民会館既存地よりも立地条件の良いものに変更することで県・市の提案する整備方針の内容は実現可能となる。

交通の中心である秋田駅に隣接することで人が集まり地域活性化に貢献できると考える。

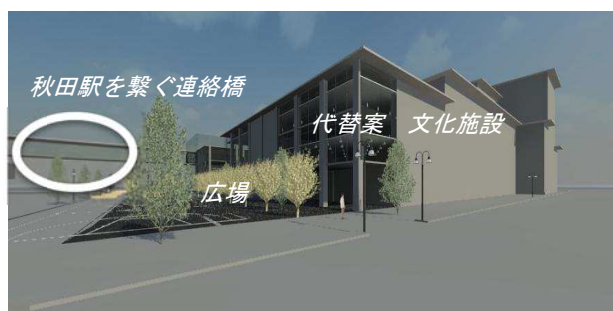


図9:代替案 文化施設外観



図10:秋田駅を繋ぐ連絡橋から見た文化施設

- 高機能型ホール ■ 舞台芸術型ホール
- 施設管理部門 ■ 公共空間
- 地下駐車場

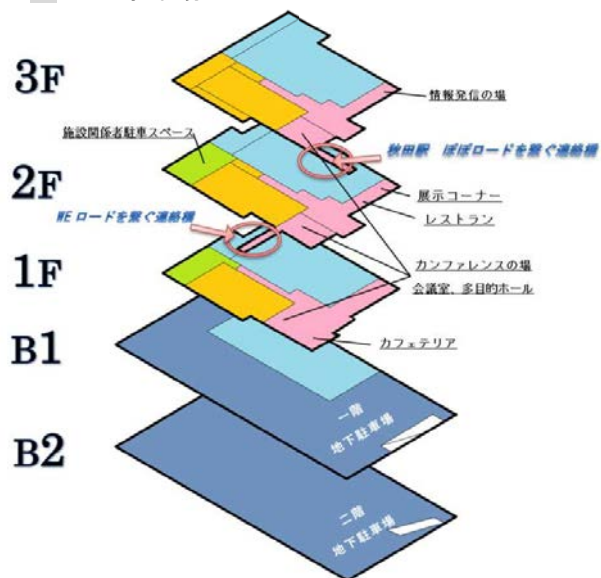


図11:階層 配置計画面

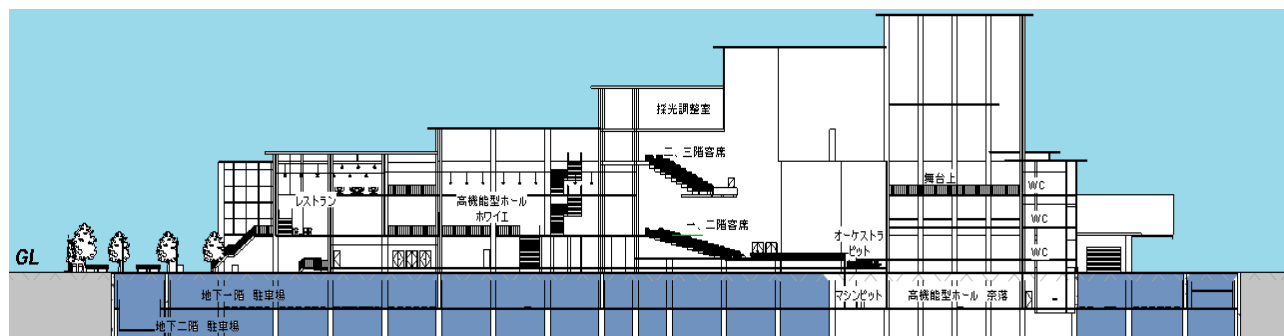


図12:文化施設 断面

4. まとめ

4.1 結論

県・市の提案する整備方針を評価し、代替案を検討した結果から秋田県民会館所在地への建替は再検討が必要であるという結論に至った。検討すべきと判断した項目を以下にまとめる。

候補地の検討

県・市は秋田県民会館既存地を候補地に挙げているが整備方針内容に対し、候補地の立地条件が適していないと判断した。整備方針の内容を実現するには候補地の変更の検討が必要である。

方針内容の検討

県・市が提案する文化施設は秋田県民会館の機能の一部が引き継がれず、4年もの間それらの機能は使用できない。この問題に関しては具体的対策が必要である。また、整備方針に必要とされる設備の規格・規模は秋田県民会館既存地には適していないと判断したが、もとよりそれらの設備の規格・規模が本当に必要とされているものなのかを検討し直す必要があると思われる。

以上のことから県・市の提案する整備方針は候補地の変更を行うか、候補地である秋田県民会館既存地に適した内容に再検討することが必要であるという結論に至った。

4.2 今後の課題

代替案は県・市の整備方針の問題は候補地を変更すれば解決されるか否かを判断するために作成した。駅前広場など敷地の特性を取り入れた設計を行ったが「県・市の整備方針が必要としている設備の規格は本当に秋田県民が望んでいるものなのか？」などの疑問を考慮していない。今後の課題としては整備方針の内容そのものを変更する際に秋田県民が望む文化施設の整備方針は何かを検討していくことである^{[1][2]}。

5. 参考文献

[1] 日本建築学会：編「音楽空間への誘い コンサートホールの楽しみ」鹿島出版会

2002/12/30 第1刷、2012/1/20 第3刷発行

- [2] 日本建築学会：編「劇場空間への誘い ドラマチック・シアターの楽しみ」鹿島出版会
2010/10/25 第1刷発行
- [3] 日本建築学会編「日本の現代劇場 設計事例集」彰国社 1997/9/10 第1刷発行
- [4] 建設省都市局都市交通調査室 監修 社団法人 日本交通計画協会「駅前広場計画指針 新しい駅前広場計画の考え方」技報堂出版株式会社 1998/7/10 1版1刷発行 2013/8/5 1版10刷発行
- [5] こばやしたけし「地方は活性化するか否か」学研プラス 2015/11/3 第1刷発行
- [6] 松本茂章「日本の文化施設を歩く 官民協働のまちづくり」水曜社 2015/4/10 初版第1刷発行
- [7] 秋田県・秋田市「県民会館・市文化会館の建替えによる県・市連携文化施設整備方針」2016/3/31 公表
- [8] 上野佳奈子「音響サイレンスシリーズ 6 コンサートホールの化学 形と音のハーモニー」コロナ社 2012/6/28 初版第1刷発行
- [9] 白澤祐二「TOKYO コンサートホール・ガイド」株式会社ヤマハミュージックメディア 2011/2/20 初版発行
- [10] 塩澤竜弥・井上翔太・山縣怜史・谷川大輔「現代日本の建築家の公立劇場・ホールの設計論における主題：公共文化施設の設計論における地域性とビルディングタイプ(6)」本建築学会中国支部研究報告集 pp. 1013-1016
- [11] 塩澤竜弥・井上翔太・山縣怜史・谷川大輔「現代日本の建築家の公立劇場・ホールの設計論における主題とその具体化：公共文化施設の設計論における地域性とビルディングタイプ(7)」本建築学会中国支部研究報告集 pp. 1017-1020
- [12] 「秋田市まちづくり地図情報システム」
<http://www.city.akita.akita.jp/city/ur/im/keikaku/08gis/default.htm>